

筑波大学構内における歩きスマホに関する研究

張 楠楠 (地球科学専攻)

1. 研究目的：歩きスマホは、歩きながらスマートフォンを操作すること。スマホの普及とともに社会問題となっている、歩きスマホによる事故が多発している。駅のホームから落ちたり、人やものとぶつかってケガをするだけでなく、他人を事故に巻き込んでしまうケースも増えている。したがって、本研究では、筑波大学構内における歩きスマホの現状について考察する。

2. 研究地域：筑波大学構内における8の場所を研究地域として調査する。この8の場所歩きスマホ状況を比較するとともに、地域的に特徴的な部分を取り上げその要因を考察する。

3. 研究方法：①8日間に現地調査より、選択する8の場所とする、午後1時から一時間内の歩き人の総数と歩きスマホ人の数を記録する。②次に、それぞれ歩きスマホ人と歩き人の総数の比率を計算して、ArcGISの機能を使って、情報の地図化を行う。③取得したデータをもとに、各場所の歩きスマホの現状を分析する。

4. 研究結果：結果は図1と表1とおりになった。調査の結果として、歩きスマホ比率が最も高い地域は平砂宿舎、次に追越宿舎と一の矢宿舎である。その原因は宿舎の周りに人々がリラックスして感じるようになる、歩きスマホを始める。大学中央食堂前と芸術体育棟前、中央図書館これら3つの場所では、歩きスマホの比率も高い。第一エリアの交差点の歩きスマホ比率は25.58%、大学会館前の歩きスマホ比率は18.51%。その理由として、人々は交差点や斜面が非常に危険な場所だと思うので、歩きスマホをやめる。調査によれば、歩きスマホは危険な場所から25メートルを離れるところから歩きスマホをやめることがわかりました。しかし、データによれば危険な場所は交通事故の多発する場所だけではなく、例えば大学中央食堂前と宿舎周辺に

おいては、交通量が多くても事故も多発する。そのゆえ、常にリスクにさらされる我々にとって、歩きスマホをしないように心掛けるべきである。

表1 各場所の歩きスマホ比率

場所	歩きスマホ人数	歩き人の総数	比率
大学中央食堂前	86	262	32.82%
第一エリアの交差点	22	86	25.58%
大学会館前	15	81	18.51%
中央図書館	55	183	30.05%
芸術体育棟前	24	70	34.28%
追越宿舎	32	64	50%
平砂宿舎	36	66	54.50%
一の矢宿舎	28	57	49.12%

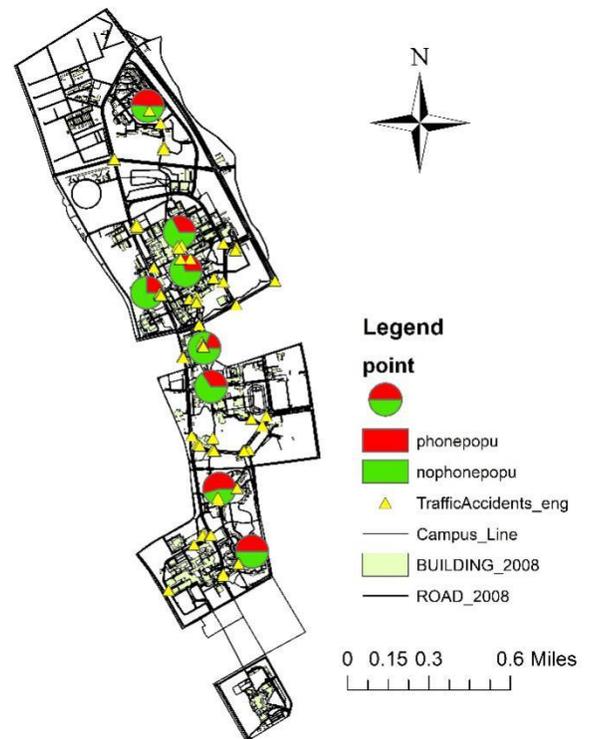


図1 各場所の歩きスマホ比率の地域別